日本の中心、日本橋

江戸に城下町ができると、川や堀に次々と橋がかけられた。日本橋は江戸の中心の橋で、全国にのびる五街道の出発点でもあった。多くの人が日本橋を渡って江戸と地方を行き来した、日本の中心の橋だったのだ。

現在の日本橋
上に高速道路が通っているが、橋は右下の石の橋がそのまま残っている。

今の地図で見てみると……
下の絵と方位を合わせた。

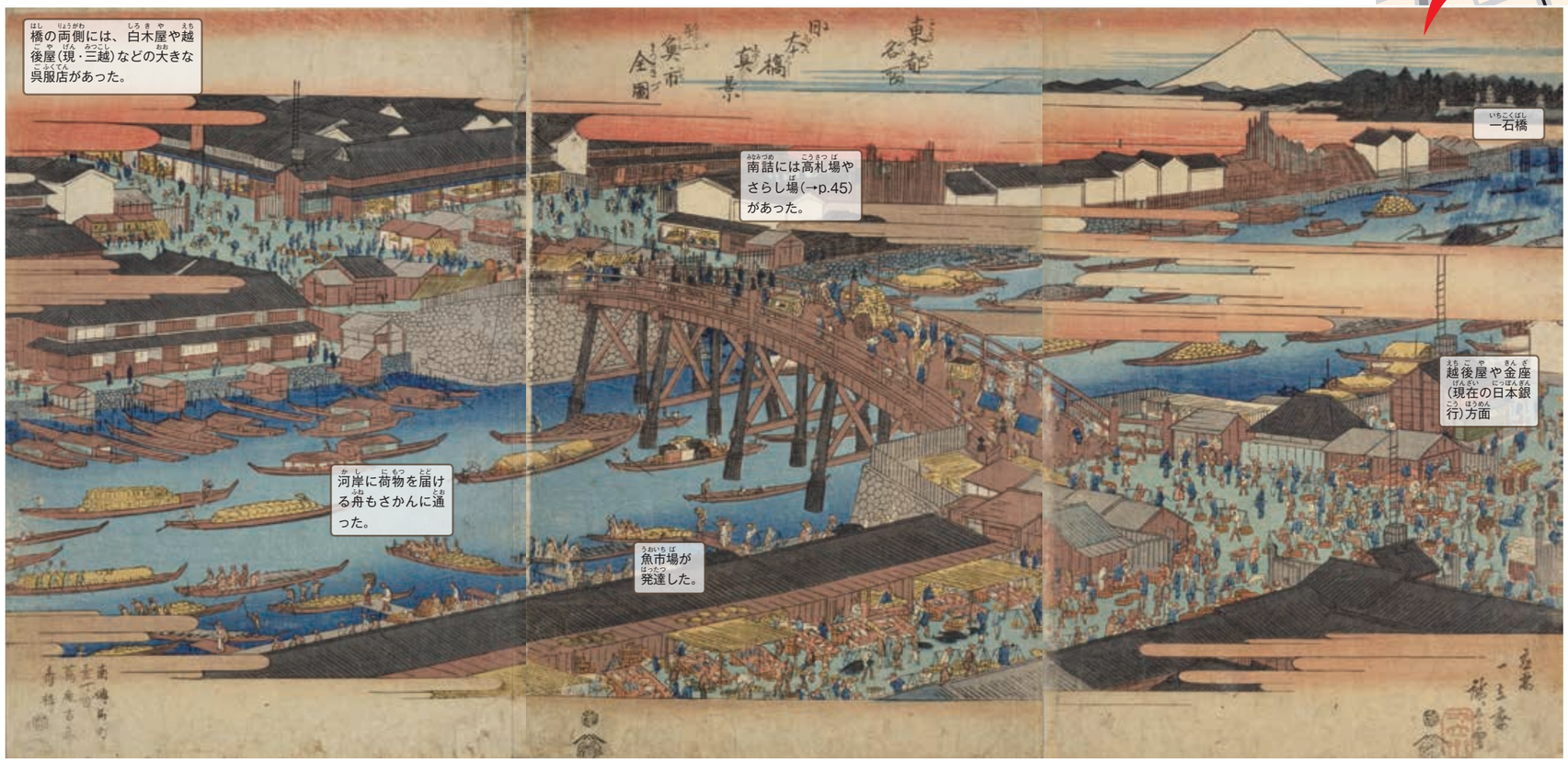
旗本になったイギリス人

ウィリアム・アダムス（三浦按針）（1564～1620）

江戸時代初期に日本に漂着したウィリアム・アダムスは、三浦按針という日本名をもらって旗本（→p.21）になり、幕府の外交を担当した。家康は按針を信頼したが、ついに帰国は許さなかった。日本橋の北側にある現在の日本橋室町一丁目の按針通りは、かつて按針が住んでいたことから、按針町という町名がつけられていたときの名残りだ。

＜日本橋はいつも大にぎわい＞

日本橋は1603（慶長8）年に日本橋川にかけられたといわれ、当時の橋の長さは約68.6m、幅は約8mだった。川沿いには魚河岸（→p.28）をはじめ、さまざまな河岸があった。橋の周辺の町は整備され、通りには商店が建ち並び、いつもたくさんの人でにぎわっていた。



天保年間（1830～1844）の江戸後期の日本橋周辺のようす。

江戸から各地へ、主要な街道の出発点

江戸幕府の設立と同時に、江戸と地方を結ぶ、東海道、中山道、甲州街道、奥州街道、日光街道の5つの街道が整備された。伝馬組織（→p.41）をもつこの五街道は、幕府が直接管理する道路で、公用の手紙や荷物、人などがさかんに行き来するようになった。いずれの街道も、起点（出発点）は日本橋だった。

日本の道路のはじまり
1873（明治6）年、日本政府は「東京は日本橋、京都は三条橋の中央」をもって諸街道の起点とするとし、のちに元標を立てた。

情報の発信地にもなった

日本橋にはいつも人がたくさん集まるので、情報を広めるのにも便利だった。橋の南西側のたもとには、幕府からのお達し（命令）などを伝える掲示板のような、高札場という場所があった。

高札
高札は人の守るべきことや禁止令、犯罪人の罪の内容などを記して掲げられた。明治初期まで続いたが、1873（明治6）年に取りはずされた。

橋の格式の高さを示す「ねぎ坊主」

橋の柱や手すりにある擬宝珠というねぎ坊主のような形のかざりは、格式の高い橋だけにつけられた。江戸市中の橋では、日本橋、京橋、新橋だけにあったといわれる。

「万治元年」（1658）と刻まれた当時の日本橋の擬宝珠。㈱黒江屋所蔵。

19回もかけかえられた

日本橋は、火災で焼けたり、古くなったりして、最初につくられてから現在までの400年以上の歴史のなかで、19回かけ替えられた。馬車や路面電車の走行にたえられるような石橋にして、その美しさは世界にほこれる橋となった。

平らな木橋
江戸時代はたいこ橋だったが、1873（明治6）年にかけかえられた橋は平らで、人が通る道と車道がはじめて分けられた。

アーチ型の石橋
1911（明治44）年につくられたアーチ型の石橋は、関東大震災や戦争の空襲にもたえて現在も残る。2011（平成23）年に100周年をむかえた。

❗ 現在の日本橋には、守り神として4頭のシシ像と4頭のキリン像（想像上の動物→p.119）がかざられている。